



奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 16

ご挨拶

教授 緒方 奈保子



今年もあと1ヶ月を切りました。皆様の今年の1年間はいかがでしたでしょうか？最近のニュースで印象に残っているのは、京都大学本庶佑先生のノーベル賞受賞でしょうか。受賞のニュースに医学界はむろん日本中が沸きました。免疫細胞の研究から臨床で実際に使用される抗癌剤にまで発展したという素晴らしい研究。本庶佑先生とは何の関わりもない私ですが、ノーベル賞受賞を聞いた時の高揚感、感動はオリンピックの金メダル100個以上（！！）のものでした。いまガンに対する”正しい免疫療法”が注目されています。しかしこの抗癌剤のお値段はとても高価なようで、さらに、効果の期待できる患者さんの対象は限られるとのこと。それよりもすごいのは、本庶佑先生は30年前にもノーベル賞受賞に値する研究をされていて、この時は惜しくも他の人に渡ってしまったものの、今回また別の研究で受賞されたということです。ノーベル賞受賞に値する研究を2つもしちゃうなんて！最近、基礎研究に関心を持つ若い医師が少なくなっていると聞きますが、このようなニュースが若い先生たちに研究への関心を持っていただく機会になればいいな、と思います。ただ、いまの日本の医師研修制度では今後ノーベル賞を受賞されるような研究者が輩出されないのではと心配です。

専門医を目指す専攻医の登録制度が昨年より始まりましたが、来年度の登録もやはり大都市に集中する傾向にあるようです。確かに地方では、人口も少なく患者も少ないわけで、必要な医師も相対的に少人数で済むのかもしれませんが、しかし、大都市より地方の方が高齢者人口は多く、住人が点在しているため一人の医師の守備範囲が広がってしまいます。これから医師過剰時代がやってくると言われます。また、必要とされる専門科も変わってきます。現行制度では初期研修2年の後、特殊な制約のない場合、基本的に個人の希望によって専門科も研修施設も選べます。しかし、そのうち成績？その他の要素？によって、専門科も研修施設も割り振られる時代がくるのかもしれませんがねー。そして、もうすぐ平成も終わります。

講演会

第16回奈良県眼科万葉フォーラム

平成30年10月6日に橿原ロイヤルホテルにて第16回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。いつも同窓会の先生方には多数ご参加頂き誠にありがとうございます。今回は特別講演として東邦大学医療センター大森病院眼科 堀 裕一先生にオキュラーサーフェス疾患における最新情報について、横浜市立大学医学部視覚再生外科学講座 門之園 一明先生に硝子体手術のイノベーションについてお話頂きました。



ご講演中の堀先生



ご講演中の門之園先生

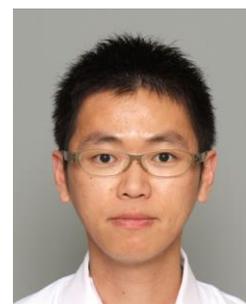
堀先生には、毎日スリットランプで観察しているオキュラーサーフェスについての新しい話題をわかりやすく教えて頂きました。門之園先生には、近年の手術治療システムのデジタル化についての興味深いお話をして頂き、大変勉強になりました。講演の後は、懇親会にて歓談しながら、和やかに終了しました。ご出席頂いた先生方、誠にありがとうございました。

人事の報告

大学では、吉川先生が講師に昇任、治村先生、中尾先生が助教として着任しましたので報告いたします。また、渡邊先生、小島先生、岡本先生、山下先生、大槻先生、竹内先生が異動しましたので、診療部長・医長の先生方より報告していただきます。

講師昇任 吉川 匡宣

2018年10月1日付けで奈良県立医科大学眼科講師を拝命致しました。私は2003年に川崎医科大学を卒業し、同年関西医科大学眼科学教室へ入局しました。2003年は臨床研修制度が始まる1年前で、ローテートなしで直接入局出来る最後の学年でした。入局後の2年間、眼科研修医としての主な仕事は外来の予診や各種検査と病棟主治医で、フォトグラファーのように一日中FA撮影を行い、夜な夜なパノラマ写真を作成していたのが懐かしい思い出です。



緒方先生との出会いは、研修医時代の一つの症例報告でした。Adult T-cell Lymphoma による眼窩腫瘍という稀な症例で、学会スライドの作成方法もよく分からない中、緒方先生にご指導いただき発表に漕ぎ着けました。その後、緒方先生から英語の論文にすると指示され、ほとんど何の貢献も出来ないまま緒方先生の手によって論文が完成し、American Journal of Ophthalmology に受理されました (Yoshikawa T, Ogata N, et al. AJO 140; 327-329; 2005)。

2年間の研修医終了後は、研修医時代よりも忙しく大変であった松江赤十字病院、逆にとても時間に余裕のあった吹田市民病院を経て、関西医科大学大学院に進学しました。緒方先生の研究室で先生にご指導いただきたいと申し出て快諾！？していただいたのが思い出されます。PCR や培養細胞の取り扱い方等の基本的なことから論文作成まで多忙な緒方先生から直接指導いただき、小胞体ストレスが網膜色素上皮の tight junction に与える影響について論文にまとめる事が出来ました (Yoshikawa T, Ogata N et al. Current Eye Research 36; 1153-1163; 2011)。

博士号取得後 2012 年に関西医科大学眼科助教を拝命し、専門外来として緑内障・糖尿病網膜症外来へ配属となりました。充実した日々でしたが、多忙な上に通勤時間が1時間以上かかることから1、2年で体力的に限界となってきました。ちょうどその頃に緒方教授から奈良医大へのお誘いの話があり、2015年4月奈良県立医科大学助教として赴任しました。奈良医大へ着任後、疫学予防医学講座の大林准教授らと共同で緑内障が生体リズムへ及ぼす影響に関する臨床研究を実施しており、初期対象者の解析から興味深い知見を得て論文化を行っています。

研修医の頃を思い返すと、講師の先生というのはとても偉大な存在であったように思います。自分にはまだ早い肩書きと覚えることも多いですが、精一杯職責を果たしていきたいと思っています。最後になりましたが、多額の研究費を要する臨床研究を実施するにあたり緒方教授からご理解と支援をいただき資金面での心配なく研究させていただいていることをここに記し深謝致します。

助教就任 治村 寛信

平成30年7月より4年ぶりに大学に戻って参りました治村寛信と申します。大学を出てからは市立奈良病院、南奈良総合医療センターに勤務しておりました。まだ専門も決めかねておりますが、最近では少し硝子体手術に触れさせて頂いております。ゆっくりと精進していきたく思っております。勉強中の身で、諸先生方にご迷惑をおかけすることも多いと思います。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



助教就任 中尾 重哉

平成30年7月より、大学病院に戻ってまいりました中尾重哉です。1年間の済生会中和病院での勤務は、1人常勤であった事による大変さはありましたが、その分得られるものも多かったと思っています。まだまだ勉強中の身であるため、諸先輩方にはご迷惑をお掛けすることも多いかと存じます。引き続き、ご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。



大和郡山病院 眼科診療部長 小島 正嗣

平成 30 年 7 月より地域医療機能推進機構（JCHO）大和郡山病院へ眼科診療部長として着任した小島です。当院は平成 21 年に桜井市にて健康保険三輪病院として誕生し、昭和 36 年に今の大和郡山市に移転し社会保険大和郡山総合病院になり、現在は JCHO 大和郡山病院として、この地で 50 年以上にわたり大和郡山市唯一の公的病院として市民の皆様に親しまれてきました。着任にあたり、手術用顕微鏡および眼科用手術台を新しくし、そのため、白内障手術の開始が 10 月半ばとなってしまいましたが、ようやく手術が始められてホッとしております。白内障手術は週に 10 件ほど行っております。また小児眼科専門の田岡先生による斜視手術も行っております。AMD や RVO に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も積極的に行っております。外来は ORT が 2 名で、月火木は私、水は田岡先生、金は京大より岡本先生が担当しております。今後も地域の医療機関との連携を深め、地域に密着した医療を提供していきます。よろしくお願ひ申し上げます。



奈良県西和医療センター 眼科部長 岡本 全弘

晩秋の候 ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと 10 月 1 日をもちまして奈良県西和医療センターへ配置換を命ぜられ、このほど着任いたしました。奈良県西和医療センターは、奈良県生駒郡三郷町にある地方独立行政法人奈良県立病院機構が運営する医療機関です。もとは奈良県立三室病院として、奈良県病院事業の設置等に関する条例（昭和 47 年 3 月 31 日奈良県条例第 27 号）に基づき設置された県立の病院でした。平成 26 年 4 月 1 日より地方独立行政法人化され、病院名も奈良県西和医療センターへ変更されました。現在、手術では、約半年待ちの状態でご迷惑をおかけしておりますが、白内障手術を中心に、1 日の件数増加を予定しております。また、加齢黄斑変性や糖尿病黄斑症、網膜静脈閉塞症などに対する抗 VEGF 療法も積極的に行っております。長年にわたり地域に根付いた病院として、地域の医療機関との連携を深め、地域に密着した医療を提供しております。



奈良県立医科大学附属病院在勤中は公私にわたり格別のご懇情を賜り厚くお礼申し上げます。今後は新たな職場においてなお一層精励する決意です。皆様には引き続き変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学会の報告

EURETINA に講師の西先生が参加し、臨床眼科学会に鴻池先生が参加したので報告します。

EURETINA 2018 に参加して

西 智

今回、European Society of Retina Specialists(EURETINA) 2018 に参加させて頂きましたので報告させていただきます。EURETINA は、ヨーロッパで毎年開催されており、今年はオーストリアのウィーンで行われました。以前、緒方先生も参加されて、大変勉強になったとのことで今回は一緒に参加させて頂くことになりました。ポスター発表だったのですが、口頭での発表も3分ある highest scoring posters に入ったので少し緊張しながら向かいました。

関西国際空港では、台風21号の影響により国際線の一部は欠航になりました。無事に振り替えることができ、伊丹から成田、ヘルシンキ経由でウィーンに到着しました。ウィーンは大好きな街で、4回目の訪問です。街並みも綺麗ですし、道端でもバイオリンのデュオが路面で演奏していて、正に音楽の都です。馬車の蹄の音も響きます。9月から新たなオペラシーズンが開幕するので街もより華やかでした。治安も良くて、世界で最も住みやすい街ランキングで今年も1位になっています。



学会場は、メッセウィーンで、ウィーンの中心部から地下鉄に乗って約15分で到着です。ウィーンには地下鉄やトラムが張り巡らされていて移動も便利です。

今回の発表は、未熟児網膜症(ROP)に対して網膜光凝固術(PC)を行った患者治療群と非治療群と健常群の小児期網膜構造の比較をしたものです。PC治療群で外顆粒層厚(ONL)、視細胞内節厚(IS)、は有意に厚く、視細胞外節厚(OS)は有意に薄く、中心窩陥凹は浅かったことを報告しました。口頭での発表も無事に終わり安堵しました。パソコンで他のポスターを見ることも可能ですし、会場がとても広くて驚きました。診断などどんどんAI化が進んでいくという発表が多く、眼科の未来に思いを馳せる学会でした。

ウィーンはハプスブルク王朝の時代に栄えた街で、美術館や宮殿も綺麗に残されており、観光地になっています。ミュージカルで有名なエリザベトに関する博物館が王宮（図1）の中にあり、エリザベトの肖像、食器や家具を見ることができます。街の中心部にあるシュテファン大聖堂（図2）は12世紀に建築され、常に修復が続けられているので訪れるたびに少しずつ風景が異なっていく様が印象深い場所です。今回大好きなウィーンで学会発表ができ大変有意義に楽しく過ごしました。今後とも研究、臨床ともに役立てるように精進していきたいと思えます。



図1



図2

臨床眼科学会に参加して

鴻池 純輔

東京国際フォーラムにて開催されました第72回日本臨床眼科学会に「Inverted ILM flap technique を行った黄斑円孔症例のOCT画像の検討」というタイトルで学術展示発表をさせていただきました。初めての学会発表でわからないことも多かったです。緒方教授、後岡先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただき無事に発表を終えることができました。深く御礼申し上げます。様々な発表や講演を拝見し、とても刺激的で非常に充実した時間を過ごすことができました。この学会で得た知識を日々の診療に活かしていけるように精進していきたいと思えます。

受賞式の報告

第7回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞受賞

西 智

この度、第7回奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞いたしました。表彰式は平成30年7月10日に奈良県立医科大学第1講義室で行われ、その後に記念講演をさせていただきました。講義内容は、遠視性不同視弱視眼の網膜構造と脈絡膜構造についてです。網膜外層の視神経外節部が眼鏡治療により延長することや、脈絡膜に関しても、弱視眼では中心窩下脈絡膜厚が弱視症例の健眼や健常群に比べて有意に厚いことを講演しました。今回受賞できましたのも日頃御指導頂いている緒方教授をはじめ、医局員、同門会の先生方の御指導のおかげであり、大変感謝いたしております。今後とも研究、臨床に日々精進し、成長していきたいと思えます。



論文掲載

奈良県総合医療センターの丸岡先生と講師の吉川先生の論文がアクセプトされましたので報告します。

Activation of Dendritic Cells in Dry Eye Mouse Model

Shinji Maruoka; Muneo Inaba; Nahoko Ogata

IOVS.2018; 59(8):3269-3277. doi: 10.1167/iovs.17-22550

丸岡 真治

ドライアイモデルマウスにおける樹状細胞の活性化についての論文が IOVS に掲載されましたので報告させていただきます。樹状細胞は抗原提示細胞として機能する免疫細胞の一種です。今回の研究では眼球の所属リンパ節である頸部リンパ節で樹状細胞が活性化していることなどを、mixed leukocyte reaction や flow cytometry などでも示しました。

Iris metastasis preceding diagnosis of gastric signet ring cell adenocarcinoma: a case report.

Yoshikawa T, Miyata K, Nakai T, Ohbayashi C, Kaneko M, Ogata N.

BMC Ophthalmol. 2018 : 25;18:125.

吉川 匡宣

【緒言】 転移性虹彩腫瘍の原発巣は肺癌・乳癌が多いが胃癌は非常に少ない。虹彩転移を初発として発見された胃原発の印環細胞癌の1例を報告する。

【症例】74歳女性。2016年3月右眼霧視を主訴に近医を受診し右眼虹彩炎による続発緑内障を認めた。精査加療目的で同月当科紹介となった。初診時の右眼所見は視力矯正0.2、眼圧31mmHg、強い前房内炎症、隅角・虹彩新生血管、虹彩表面に白色フィブリン様被膜を認めたが、眼底に虚血性変化はなかった。左眼に特記すべき所見は認めなかった。炎症からの血管新生緑内障と診断し、抗炎症治療を開始するも眼圧が下降しなかったため、右眼線維柱帯切除術を施行した。術後眼圧は10mmHg前後となった。しかしその後、虹彩萎縮をきたし、白色の蛙の卵状の混濁が前房内に出現、眼圧コントロール不良となったため、初診から6か月後に虹彩生検を施行した。病理組織診の結果、粘液産生し、免疫染色にてケラチン陽性の細胞を認め、印環細胞癌の虹彩転移が疑われた。上部内視鏡検査では Borrmann4 型の胃癌を認め、生検にて印環細胞成分を含む腺癌と診断された。その後、化学療法が行われたが前房内の白色混濁は消失せず最終受診時の視力は光覚なしであった。

【結論】 原因不明の前房内混濁を伴った虹彩炎、続発緑内障を認めた場合、転移性虹彩腫瘍を鑑別にあげ虹彩生検を考慮する必要がある。

Association between glaucomatous optic disc and depressive symptoms independent of light exposure profiles: a cross-sectional study of the HEIJO-KYO cohort.

Yoshikawa T, Obayashi K, Miyata K, Ueda T, Kurumatani N, Saeki K, Ogata N.

Br J Ophthalmol. 2018 Oct 25 in press

吉川 匡宣

緑内障では生体リズム同調に重要な役割を果たす内因性光感受性網膜神経節細胞が減少し生体リズム障害が生じている可能性がある。またうつ病はランダム化比較試験で光療法の有効性が示されており生体リズム障害が関連していることが示唆されている。それゆえ緑内障では生体リズム障害によりうつ症状を生じることが推測されるが、視覚障害のため行動が制限され光曝露量自体が減少している可能性もある。

したがって我々は奈良医大疫学予防医学講座が実施している平城京コホート研究の参加者を対象として、光曝露量を調整したうえで緑内障性視神経乳頭の有無がうつ症状と関連しているのか横断解析した。その結果、年齢・視力等の既知の交絡因子だけでなく光曝露量を調整した多変量解析で緑内障性視神経乳頭あり群(n=40)はなし群(n=730)と比較してうつ症状のオッズ比が有意に高かった（オッズ比 2.45, 95%信頼区間 1.18, 5.08）。

結論、緑内障は内因性光感受性網膜神経節細胞死による生体リズム障害によってうつ症状と関連している可能性が考えられた。

奈良県立医科大学 眼科外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	西	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	小児・神経眼科外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	後岡	宮田	手術日	吉川	手術日
	午後	網膜硝子体外来	緑内障外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
3診	午前	西川	大熊（第1・3）	手術日	治村	手術日
	午後		小児・黄斑外来	専門外来	黄斑外来	専門外来
4診	午前	伴	中尾	手術日	峯（第1・3・5） 大萩（第2・4）	手術日
	午後		黄斑外来	専門外来		専門外来
5診	午前		岡部	手術日	小林（第1・3・5） 増田（第2・4）	手術日
	午後			専門外来		専門外来
6診	午前				平井	
	午後					

- ・ 専門外来は完全予約制です。
- ・ 初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・ 地域連携の予約は月が6名、火・木が8名、水・金は5名可能となっております。

編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で16回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。先生が日頃感じておられることや、趣味のお話など、どのような内容でも結構です。何なりとご投稿頂ければ幸いです。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまでよろしくお願い致します。

tomon@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 西 智